

第5回 沖縄眼科臨床懇話会

新専門医制度単位 1.0単位 <認定番号61308>

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
この度『第5回沖縄眼科臨床懇話会』を以下の日時にて開催致します。
先生方のご参加を心よりお待ちしております。

日時 2023年10月22日(日)10:00～12:00

形式 現地開催➤**沖縄県立博物館・美術館「講堂」**
住所：沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL：098-941-8200

会費 1,000円 ※現地支払い
※参加費は会の運営費用として充当いたします。

座長 琉球大学大学院医学研究科 医学専攻眼科学講座
教授 古泉 英貴 先生

特別講演① 10:00～11:00

『視神経腫脹をきたす疾患の鑑別診断と治療』
毛塚眼科医院／東京医科大学臨床医学系眼科学分野
毛塚 剛司 先生

特別講演② 11:00～12:00

『緑内障患者にみられる眼周囲・眼表面の変化』
島根大学医学部眼科学講座
教授 谷戸 正樹 先生

第5回 沖縄眼科臨床懇話会

新専門医制度単位 1.0単位 <認定番号61308>

『視神経腫脹をきたす疾患の鑑別診断と治療』

毛塚眼科医院／東京医科大学臨床医学系眼科学分野 毛塚 剛司 先生

多くの眼科医にとって視神経腫脹をきたす疾患といえば、中枢系疾患を連想すると思われ、苦手意識を持ちがちである。効率的な視神経腫脹の鑑別には、眼外症状を的確に問診で聞き出すことが重要であり、ある程度は視神経腫脹をきたす疾患についての予備知識が必要である。視神経腫脹をきたす疾患として、視神経炎、うっ血乳頭、虚血性視神経症が有名であるが、ぶどう膜網膜疾患でも視神経乳頭腫脹をきたすことがある。本邦において、三大ぶどう膜炎と言われるベーチェット病、サルコイドーシス、原田病でも視神経乳頭腫脹から始まるケースもあり、他にも梅毒のような感染性疾患にも注意を払う必要がある。一方、最近ではアクアポリン4

(AQP4)抗体やMOG抗体が陽性となる視神経炎が注目を浴びている。これらのケースを含めた視神経炎に対する国際ガイドラインが昨年末に発表された。このガイドラインでは、MRI所見と同等に光干渉断層計(OCT)の意義が述べられている。また、今年3月にはMOG抗体陽性疾患の国際ガイドラインも報告され、2015年に発表された視神経脊髄炎スペクトラム障害(NMOSD)の国際ガイドラインも含めて、おおよそその視神経炎関連のガイドラインが固まったと思われる。また、NMOSDの急性期治療後の再発寛解期治療として、数種の生物製剤が認可されている。本講演では、視神経乳頭浮腫をきたした疾患の鑑別診断とNMOSDを含めた最近の特発性視神経炎の新たな治療法について述べる予定である。

『緑内障患者にみられる眼周囲・眼表面の変化』

島根大学医学部眼科学講座 教授 谷戸 正樹 先生

多くの緑内障は加齢を基盤として発症・進行し、その患者数は現在も増加中であると予想されます。緑内障はその有病率の高さから、眼表面疾患など他のcommon diseaseとの併存をしばしば経験します。緑内障点眼治療や手術などの緑内障治療そのものが眼表面疾患の発症・増悪因子である事も理解され、緑内障治療関連眼表面障害(glaucoma-therapy related ocular surface disease, GTOSD)と呼ばれるようになりました。また、緑内障点眼治療が直接的に関連する眼瞼の変化としてプロスタグランジン眼関連周囲症(prostaglandin-associated periorbitopathy, PAP)も知られています。GTOSDやPAPは、患者のQOLや治療成績そのものにも影響します。一方で、これらは、臨床医が適切に診断し、対応することで予防や治療が可能な病態でもあります。本講演では、緑内障患者にみられる眼周囲・眼表面変化について、実際の症例を交えながら紹介し、その病態と対処方法について演者の私見を交えながら解説したいと思います。